

平成27年9月14日

関係機関長および関係各位

京都大学防災研究所長

寶 馨

教員の公募について

拝啓

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当研究所は「災害に関する学理の研究及び防災に関する総合研究」を目的とする全国共同利用の研究所であり、5研究部門・6附属研究センターによって構成されています。平成22年度より、「自然災害に関する総合防災学の共同利用・共同研究拠点」に認定され、より広範な共同利用・共同研究を推進しております。

このたび、下記の通り教員を公募することになりました。つきましては、ご多用のところ、まことに恐縮ではございますが、関係各位の皆様方にご連絡いただくとともに、適任者の応募についてよろしくお取り計らい下さいますようお願い申し上げます。

敬具

記

1. **職 種**： 准教授
2. **募集人員**： 1名
3. **勤務場所**： 地盤研究グループ 斜面災害研究センター 地すべりダイナミクス研究領域
(所在地：宇治市五ヶ庄)
4. **職務内容**：
斜面災害の軽減を目的として、地すべり・崩壊の発生及び天然ダム等の形成に至る崩壊土砂の運動・堆積過程について、野外調査・観測・実験さらに力学的な解析を基礎とする研究を実施する。これにより、斜面災害予測及びハード・ソフト的対策に資する研究を国内外の研究機関と連携して推進する。また、京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻の教育を担当する予定である。
5. **資格等**： 博士の学位を有すること。
国籍は問わないが、日常的に日本語が使えること。
6. **採用予定日**： 可能な限り早い時期
7. **任 期**： なし
8. **勤務形態**： 専門業務型裁量労働制（週38時間45分相当、1日7時間45分相当）
休日：土・日曜日、祝日、年末年始、創立記念日及び夏季休業日
9. **給与・手当等**： 本学支給基準に基づき支給

- 1 0. **社会保険**： 文部科学省共済組合、雇用保険及び労災保険に加入
- 1 1. **応募方法**： 次の (1)～(6) 各一式
- (1) 履歴書
 - (2) 研究業績一覧（査読付き論文とその他の論文、著書、解説、報告などに区分けしたものの）
 - (3) 主要論文別刷（コピー可）5編
 - (4) 研究業績の概要（A4用紙2枚以内）
 - (5) 今後の研究計画及び抱負（A4用紙2枚以内、説明図の利用可：これまでの実績を踏まえてどのような研究を行うか、応募者の考えを示すこと）
 - (6) 推薦書（または、応募者について意見を伺える方2名の氏名と連絡先）
- 1 2. **書類提出先**：
- 〒611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学防災研究所担当事務室 気付
斜面災害研究センター 地すべりダイナミクス研究領域 准教授候補者選考委員会 宛
（封筒の表に「教員応募書類在中」と朱書し、郵送の場合には書留にすること）
- 1 3. **応募締切**： 平成27年11月16日（月）【必着】
- 1 4. **選考方法**： 書類選考のうえ、必要に応じて面接を行います。面接等の詳細は、別途連絡します。
- 1 5. **問い合わせ先**：
- 〒611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学防災研究所担当事務室 気付
斜面災害研究センター 地すべりダイナミクス研究領域 准教授候補者選考委員会 宛
e-mail: apply_staff'at' dpri.kyoto-u.ac.jp （'at'を@に置き換えてください）
（封書あるいは電子メールに限ります）
- 1 6. **その他**：
- 応募書類に含まれる個人情報、選考および採用以外の目的には使用しません。
なお、京都大学は男女共同参画を推進しています。多数の女性研究者の積極的な応募を期待しています。

地盤研究グループと斜面災害研究センターの概要

地盤研究グループでは、液状化、地盤沈下、斜面崩壊、地すべり、土壌浸食、および関連する現象の過程とメカニズムの研究を進めるとともに、災害予測と軽減技術の開発を行います。山地から丘陵地の地表変動プロセスの解明と低平地の地盤安定性評価とモデリングの研究を進めます。また、地すべりの現地観測等の実態解明を通じて、災害の発生機構、危険度評価・軽減、地球規模監視システム等の研究を推進すると共に、理工・文理融合研究によって、斜面防災都市を実現するための応用研究を展開しています。地盤研究グループは地盤災害研究部門と、斜面災害研究センターとから構成されています。

1. 斜面災害研究センターの概要

当センターの前身である「地すべり研究部門」は、昭和34年に設置されました。地すべり研究部門は平成8年の改組で地盤災害研究部門地すべりダイナミクス研究分野となり、その後、地すべりダイナミクス研究分野と旧災害観測実験研究センターの徳島地すべり観測所を母体として、2研究領域からなる斜面災害研究センターが平成15年（2003）に発足しました。

当センターでは、斜面変動の実態を解明し、斜面災害から人命・財産、文化・自然遺産を守るため、地すべり現象の把握、地すべり発生・運動機構の解明、地球規模での斜面災害の監視システムの開発、地すべりのフィールドにおける現地調査・計測技術の開発、広域の斜面災害危険度評価及び斜面災害軽減のための教育・能力開発を実施しています。主な研究内容は、1) 地球表層における地すべり現象の分布と実態の解明；2) 地すべりの発生・運動機構の解明；3) 人間活動と斜面災害関係史の解明と災害予測；4) 人口密集地、文化・自然遺産地域等を災害から守るための信頼度の高い地すべり危険度評価と災害危険区域の予測；5) 地球規模での斜面災害の監視警戒システムの開発；6) 地すべりのフィールドにおける現地調査・計測技術の開発；7) 斜面災害軽減のための教育・能力開発の実施です。最近発生した四川大地震や東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）では、発生直後から直ちに現地調査を実施すると共に、観測体制を整備して斜面変動の監視を行っています。当センターは以下の2研究領域から構成されています。

地すべりダイナミクス研究領域

主に、地すべりの発生機構の解明と広域の斜面災害危険度評価手法の研究を行っています。前者では、特に、高速長距離運動地すべりの発生機構、及びすべりから流動への相転換のメカニズム、及び発生した地すべり、斜面崩壊土塊の拡大・運動継続機構と停止条件に関する研究を実施しています。後者においては、都市域における斜面災害危険度評価手法の研究、遺跡や歴史資料に基づく地すべり災害史の編纂のための研究、及び文化・自然遺産等の重要施設を含む地域の危険度評価に関する研究を行っています。

地すべり計測研究領域

徳島地すべり観測所をフィールドステーションとして、結晶片岩地すべりの長期移動計測および地下水観測を継続実施しています。また、国内外で発生する各種のタイプの地すべりの現地調

査，力学特性ほか各種要因の計測技術の開発を実施するとともに，大学院生，社会人，海外からの研修生等に対して地すべりに関する教育・能力開発を実施しています。

2. 地盤災害研究部門の概要

地盤災害研究部門では，地盤災害に関連する基礎学理に根ざし，地盤災害の予測と軽減を目指した研究を展開し，さらに，学際領域を分野横断的に開拓しています。地盤災害研究部門は地盤防災解析研究分野，山地災害環境研究分野，傾斜地保全研究分野の3分野で構成されています。

3. 現在の教員構成（平成27年9月1日現在）

地盤災害研究部門	【教授】	【准教授】	【助教】
地盤防災解析研究分野	井合 進	飛田哲男	上田恭平
山地災害環境研究分野	千木良雅弘	松四雄騎	齋藤隆志
傾斜地保全研究分野	松浦純生	寺嶋智巳	

斜面災害研究センター	【教授】	【准教授】	【助教】
地すべりダイナミクス研究領域	釜井俊孝	(今回公募)	土井一生
地すべり計測研究領域		(選考準備中)	王 功輝

----- 共同利用・共同研究拠点について

個々の大学の枠を超えて、大型の研究設備や大量の資料・データ等を全国の研究者が利用したり共同研究を行う「共同利用・共同研究」のシステム、全国共同利用研究所として、防災研究所は共同利用や共同研究を推進してきましたが、平成20年7月に創設された、文部科学大臣による「共同利用・共同研究拠点」の認定制度により、平成22年度からは、新たに「自然災害に関する総合防災学の共同利用・共同研究拠点」として共同利用・共同研究を推進しています。

なお、京都大学防災研究所の詳細は下記のホームページをご参照下さい。

<http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/>